



第 170号

代田・九条の会News

編集
代田・九条の会
小澤 清子
伊東 宏

2023/1/14

itohiroshi1007@gmail.com

ホームページ : <http://www.daita-9jo.sakuraweb.com/>



2023年を迎えて

新しい年を迎えました。

昨年、岸田政権が閣議決定した「安全保障3文書」の危険性がますます明らかになってきています。岸田首相は、国会での議論など、国民に向かって十分な説明を行わないまま、アメリカのバイデン大統領に、得々と説明し、アメリカの世界戦略へのめりこみを明らかにしました。発表された共同声明で「共同の戦力態勢及び抑止力の方向性をすり合わせてきた。両首脳は、日本の反撃能力及びその他の能力の開発及び効果的な運用について協力を強化する」と明記されました。

新聞報道によると、敵基地攻撃能力（反撃能力と言っています）の具体的兵器として、「トマホーク」という長距離巡航ミサイルをアメリカから購入することを言明し、バイデン大統領が支持したと伝えられています。また、米軍との「運用」という形で、米軍との共同作戦に向けて強化が図られていきます。自衛隊では「統合司令官」制度の設置検討が、また米軍では沖縄駐留部隊の編制替えが伝えられています。アジアでの緊張を高める効果しか持ちません。

先の大戦からの教訓の一つは、軍備拡張競争とブロック体制化がお互いにエスカレートし、戦争につながってしまった、ということだと思います。核兵器の登場以降、こうした道に将来はなくなったことは明白です。今、重要なことは、アジアの緊張の原因となるような事態の一つ一つを冷静に見て、解決のためにお互いの中で綿密な外交努力を行うことだと思います。

「新しい戦前」とか、「昭和10年代の再来」ということも聞かれます。しかし、いま、日本に生きる私たちは、岸田政権の進める危険極まりない軍備拡張の道に進むのではなく、世界の人々と連帯して、戦争に至る道を閉ざし、ともに持続的に平和で豊かな暮らしを作ることではないでしょうか。

コロナ禍がまだ収束しない中、活動にいろいろな制約がありますが、地道に憲法を守り・活かす活動を進めていきましょう
(代田2丁目・伊東 宏)

寄稿 2023年年頭に思うこと

一日も早くウクライナに平和が訪れることを。これ以上人々の苦しむ姿を見たくありません。拒否されるかも知れない、話がまとまらないかも知れない。それでも繰り返し、ロシアに特使を派遣する努力を各国政府、日本政府にはしてほしく思います。このままでは、ウクライナはもちろんロシアも、その他の国々も破滅的な事態になることをプーチンに訴え続けてほしく思います。

日本の国是は、武力によらない平和の実現です。「国民のいのちと暮らしを守る」なら、教育、社会福祉、防災、その上に立った生活意欲の醸成にあるべきです。ミサイル・戦闘機・空母ほかの戦力・軍事力の増強は、他国の不信感と敵視を招くだけだということを見落としてはなりません。若い人から将来への希望を奪い、不安を放置する政策は直ちに改めなければなりません。

今年は、若い人をサポートして、若い人の自主的な力に依存することができるようになればいいな、と強く願っています。

(代田2丁目・福島 和夫
世田谷・九条の会事務局長)

改憲反対、 9条いかした平和外交こそ



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう～
+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

代田・九条の会ニュース 168号で岩瀬薫さんが寄稿された「世田谷・九条の会が17周年のつどい」が、実に簡潔に私たち九条の会の歩みをまとめてくれています。

私も当初からメンバーとなって歩んできましたが、同志の加藤榮一先生（早大）が昨年4月98才で永眠されました。従って私が最年長（91才）になったかと思いますが、もう流石に活動への参加はできません。

しかし、九条の会の精神をふまえて生命ある限り行きたいと念じています。

代田5丁目・野間口 至

年のはじめに

自公政権は昨年末、敵基地攻撃能力の保有と行使容認を閣議で決定した。防衛予算の倍化（GDPの2%）と5年間で40兆円を超える軍備拡大を狙っている。平和国家として専守防衛に徹すると述べはているが、これらの策動は違憲であり、日本を軍事大国に向かわせるものに他ならない。

私は、平和主義を覆そうとする政権の退陣と閣議決定の撤回を強く求めたい。全国の九条の会とともに、多くの人々が参加できる運動をひろげていきたいと思っている。

2023年を歴史の分岐点にしてはならない。

代田2丁目・坂本 功

元号「令和」は、大宰府への左遷を不当と感じていたであろう大伴旅人が、古代中国で政府の腐敗を批判し挫折した役人・張衡の漢詩を踏まえて、万葉集の自作歌に付した序文に由来。悪政を憎むその言霊が、まずは昨夏やや荒々しく力を示し、5年目にしていよいよ本領を發揮し始める……そう信じつつ、本年もよろしくお願いいたします。

梅丘一丁目・真藤 一彦

軍事力を教育力に切り替えたコスタリカ共和国へ
日本の政治家を留学させてしまう！

コスタリカ共和国は悲惨な内戦の反省から武器を捨てて戦争を排除、自立の平和を成し遂げています。

他国の基地もありません。

国家予算のほとんどを教育予算に注いでいます。

国民の識字率は97%で意識も高いそうです。

近隣の国々の平和をも助けています。

このような偉大な国に、劣化が激しい日本の政治家を学ばせるために送り込む。

このアイデアはいかがでしょうか。

新春の夢（^ω^）・・・

代田5丁目・日暮 恵子

コロナもまだまだなのに、ロシアの侵略、統一協会と政治家の実態、そして「記憶がない」と亜平を切る凶々しさ、そんな混乱のさなか、今度は軍事費のための増税などと言いつつ、福祉や医療や文化・教育などのためには一向に手を出さないのに国民もナメられたものだ。消費税だってそのうちアップを言い出すに決まっている。冗談じゃない！そんな輩は大掃除して整理したいとねがっています。やっぱり声をあげ続けたいと・・・！

代田一丁目・横川 功

日中戦争の時、アメリカが介入してきて太平洋戦争となり、いま、ロシアのウクライナ戦争にやはりアメリカが軍事物資支援で介入して、アメリカの漁夫の利。やがて終息。東条英機の如くプーチンの末期、一刻も早くと願う。それにしても、アメリカの文化は好きだが、体制はいつでも、大、大嫌い

梅丘一丁目・湯沢 勉



代田1丁目・岩瀬 薫

戦争で平和はつukれない

2023年の幕開け。届いた賀状には、元気で頑張っている様子が記されていましたが、中には「ステージ4の癌で治療中」「昨年大腸癌の手術、妻は心臓で入院」「夫がホームに入所、淋しいです」などの文面もあり心が痛みます。ロシアのウクライナ侵略により両国の兵士や子どもを含む多くの市民が亡くなり生命が脅かされています。息子や夫、子どもなど大切な人を失った人々の思いは、いかばかりでしょうか。戦争で平和はつukれません。侵略は許されないという国連憲章に基づいて外交に力を尽くすことが国際社会に求められています。

昨年国会閉会後に、岸田政権は、「安保3文書」を閣議決定。戦後日本の在り方を根本から覆す「戦争国家づくり」の暴挙を行った。2ヶ月に4人もの閣僚が更迭になった閣議の決定は、国会で充分論議を尽くして決めるより権威があるというのは、おかしいのではないのでしょうか。国民主権・立憲民主主義に反しています。永井 愛さんは、「言葉を手がかりに」の著書のなかで今、自分の目で政権運営を見つめて意思表示をしていかなければ、物言えぬ時代になり日本には未来はない。そこで必要なのは「見ること、伝えること、考えること」という主体的な行動を取ることであると提示しています。将来に悔いを残さないよう声を上げる時です。

代田5丁目・小澤 清子

「一九四六」東京展と新年あいさつ

2023年1月12日～15日まで北区の「北とぴあ」で、中国人画家・王希奇が描いた「一九四六」という展覧会が開かれた。縦3m x 横20mの大作で、1946年から始まった満州からの引き揚げを題材としたもの。私も47年、6歳の時に家族8人で大連（遼寧省）から引き揚げてきた。この中に私が描かれているかは不確かですが、大変興味深いものだった。

さて、新年にあたり、みなさんに、北京語であいさついたします。

向大家致以最親切的問候！

祝兔年吉祥、平安健康！

代田1丁目荒川 興道



明けまして

おめでとうございませう

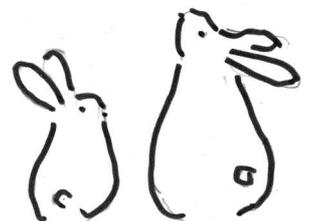
2023

今年も戦争か平和かの分岐点
軍備・軍拡ではなく、九条をかかへて
平和の外交を。

絶対に岸田首相には辞めて
もらひませう！！

代田4丁目

荻野幸子



ジョージ・オーウェルの傑作『1984年』の 向こうを張った小説『2023年』……

舞台となるN国は、民主主義国家を標榜していますが、それはもはや「民が主（あるじ）として」治める、すなわち市民が主権を有する国ではなく、選挙を通して議会の多数派となった者たちが「民の主として」治める、すなわち政権与党が好きなように市民を支配する国のことだと考えられるようになっています。

少し前の総理大臣が、知性と良心を完全に欠いていたにもかかわらず、いやむしろそれゆえに、祖父以来の政治家としての家柄と、彼をうまく利用しようとするU国政府やJ党員はじめ国内外の有力者の力と悪知恵、さらには運も味方につけて長く政権を維持しました。その結果、彼に取り入った者たちは味をしめ、一方彼に抵抗しようとした野党や市民の多くはあきらめてしまったのです。

実はN国には、本来の民主主義を目指して作られた憲法があります。前述の元総理は、邪魔なこの憲法を改訂しようと画策しながらうまくいかず、でも憲法に反する法案や政策は、メディアや官僚を圧力でコントロールしつつ、「数の力」で国会を通すことに成功しました。そこから彼以降のそこそこ知性はあるが良心はない為政者たちは学んだのです—憲法は手間をかけて変えなくても、無視すれば事足りる、と。

さて、こうした状況にあるN国は、2023年にどのような事態に直面するのか、そしてどのような未来へと向かうのか……気になるそのストーリーを書き上げるのは私たちN国……こと、日本に住む私たちです。 (梅丘1丁目・真藤 一彦)

寄稿

九条の会まつざわ 莊司 美子

2023年、戦後78年目を迎えます。戦争を体験していない大多数の人々の時代になって、戦後日本の安全保障政策の重大な転換を迎えようとしています。戦争できる国にならんとしている危機感がひしひしと伝わります。

「九条の会まつざわ」が発足したのは、2007年10月でした。発足した当時は、多くの戦争体験者がお元気で、「九条の会まつざわ」も毎回、学習会に20人から30人の参加者がありました。

呼びかけ人の金子先生の学習会のキャッチフレーズが「憲法の語り部」となろうでした。2015年になるとそのキャッチフレーズが「第九条の危機と希望」—「平和」のバトンタッチのために」に変わりました。発足当時の参加者が一人、二人と参加できなくなり、若い世代に呼びかけることを迫られました。しかし、なかなか壁は厚く、「九条の会まつざわ」の参加者は低迷を続けています。戦争は嫌だと思っている人々はたくさんいるのに、なぜでしょう。

この頃「平和」という文字が 臃げに霞んで見えるんだ 意味さえ虚ろに響く

世の中を嘆くその前に 知らないそぶりをする前に 素直に声をあげたい

大晦日の紅白歌合戦で、Rock' n' Roll Band が、確信に満ちた軽快な演奏していました。

今年こそ、「戦争はいやだ」と思っている人達を引き入れて、声をあげてもらいたい！

集会等の紹介

**以下の案内があります。今後の状況によっては中止されることもありますので、ご注意ください。

5月20日(土) 午後1時半～4時ころ 代田・九条の会 (計画中)

女性弁護士二人組の「四谷姉妹」に、話をしてもらいます。

**感染がさらに拡大するようであれば、中止します。

場所：都民教会・礼拝堂(代田5丁目)



日本国憲法(抜粋)

第2章 戦争の放棄

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。